

グラフィックデザインコース

森野晶人

Akihito Morino

デザイン学科 教授

所属団体

公益社団法人 芸術工学会 / 理事
日本デザイン学会
熊本県民テレビ番組審議委員

専門分野

タイポグラフィ
コミュニケーションデザイン



タイポグラフィを通じたコミュニケーションデザイン

タイポグラフィは、書体デザインや文字組を中心に長年にわたり、印刷メディアを介したコミュニケーションを支える重要なデザイン領域として存在してきました。現在では、映像や空間などにおいても欠かすことができませんが、将来メディアの形態が変わってもタイポグラフィの力が衰えることはないと思っています。私がデザインの領域としてのタイポグラフィに出会ったのは、アメリカに留学した30年前でした。以来、いいコミュニケーションが生まれるような文字を見せたいという願いを追い続けてデザインに関わってきました。これからも文字の持つ面白さを発信する側に身を置いていければ幸いです。

偶然の出会いからインスピレーションを受けて自分の感性と共鳴する。
だから偶然の出会いを求めてデザインをしているんだと思います。

森野晶人（教授、デザイナー）

Graphic

Design



熊本市市民会館 50 周年記念ガラコンサートにおける映像演出 (2018)



劇団きらら「野生の沸点」プロジェクションマッピング (2005)

学外プロジェクト

産官学連携によるデザインプロジェクトを通して、社会に対するデザインの役割を学生と一緒に考えています。これまでに、熊本の仕事人街中 70 人ギャラリー、ドキュメンタリー映像『熊本の女性とスポーツ文化』、熊本市市民会館工事フェンスデザイン、合志市コミュニティバスラッピングデザインなどはじめ、社会とのつながりの中で実践的なデザイン活動として取り組んでいます。

学生・指導作品の学外評価



記憶の trace (2016)
東京デザインウィーク学校作品展に出品した熊本地震による体験を基にした作品。シャープペンシルの芯およそ8000本を使って、熊本城の石垣・武者返しを表現した。東京デザインウィーク学校作品展において準グランプリ受賞。



鶴屋百貨店ディスプレイデザイン「The Heart of Roses」(2018)
2013年より毎年バレンタイン向けのディスプレイを制作。甲野研究室と共同研究。
2014年と2016年にはCSデザイン賞において優秀賞受賞。



「こっち向いて」(2014)



「クラム・キラメク・メクルメク」(2016)

ゼミ展でデザイン実験の発信を目指す

森野研究室では、毎年ゼミ展「look and feel」を開催しています。「見方を変えて感じたモノ・コトを伝える」を基本コンセプトに、これまで「peace」「signal dance」「ON!人を動かすデザイン」「いろいろないろ」「あいまいなデザイン」などのテーマで3・4年生と大学院生のゼミ生がタイポグラフィやコミュニケーションデザインの実験制作に取り組んだ作品を発信する展覧会です。自らデザインした展覧会を通して、来場者から受けるフィードバックも学生の将来へのチカラとなります。



森野研究室



もじこち 2017/井添景子



毒のある植物図鑑 2017/中島美紗



typographic 龍之介 2016/桐原萌里



変創膏 2017/朝倉恵



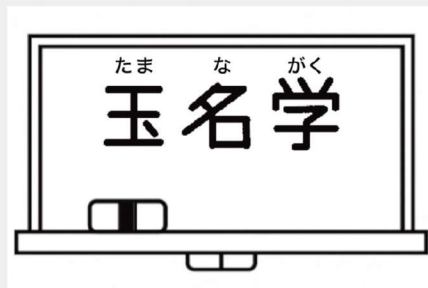
色弱者への配慮を促すガイドブック 2013/楠田朱季子

課題はすべて円滑なコミュニケーションのために

理解してほしい情報や気づいてほしい事柄をどのように視覚的に伝えたら円滑なコミュニケーションが生まれるのか、試行を繰り返しながら、考えるプロセスを大事にして取り組んでいます。授業の課題を通して、コミュニケーションデザインや情報デザインの新しい考え方や表現方法を学びます。平面的な表現にとどまらず、空間表現、インタラクティブ表現など最終形態では常にメディアにとらわれないデザインに挑戦しています。



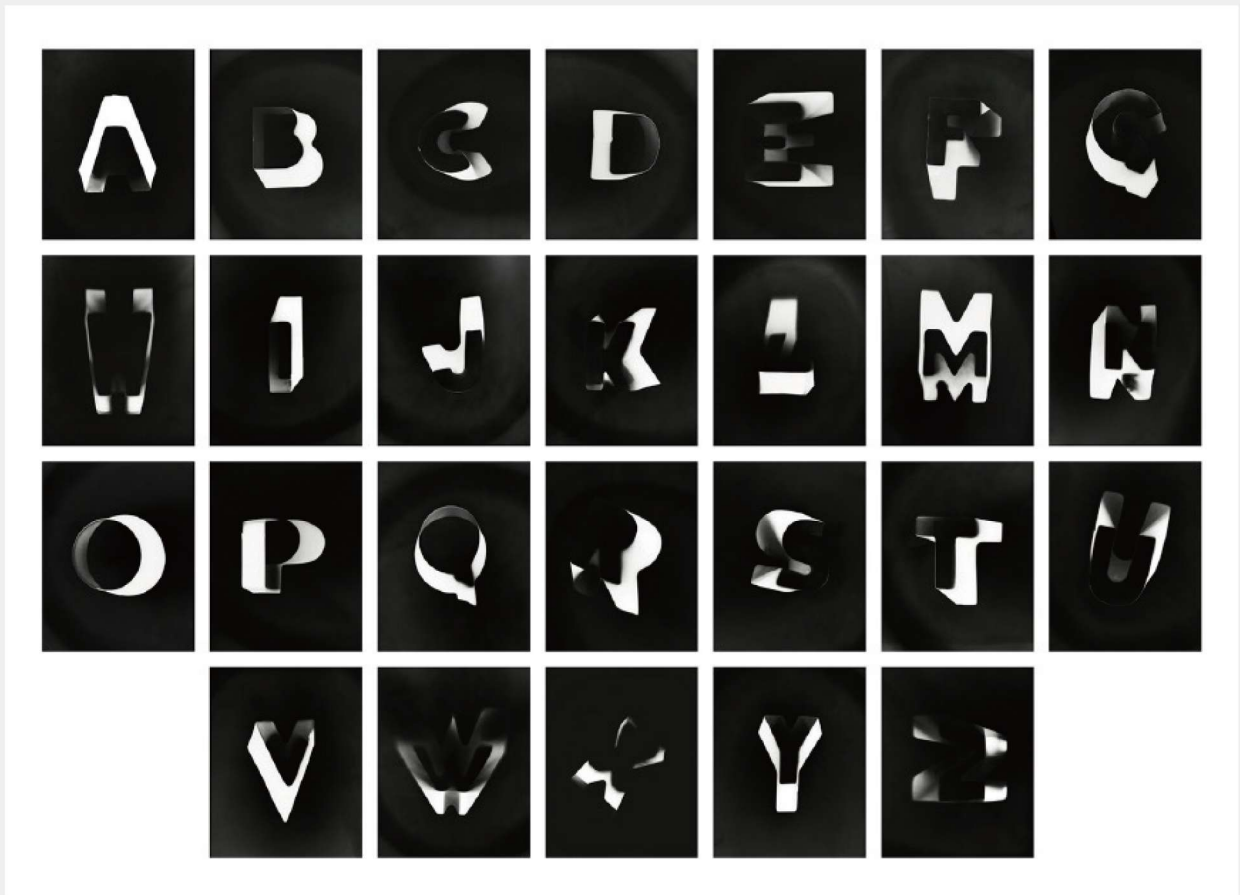
ゆかり文庫 2017/川本穂乃花



玉名学教材映像制作/2014-18



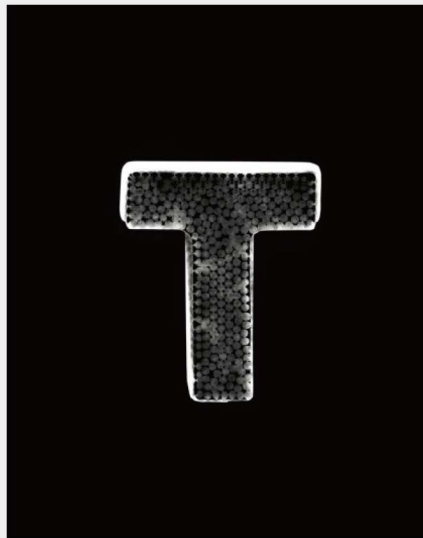
肥後象がんウェブサイト/2015



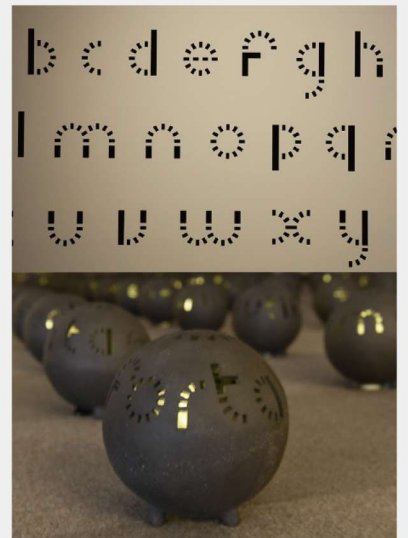
letters (2015)



beginnings 1 (2005)



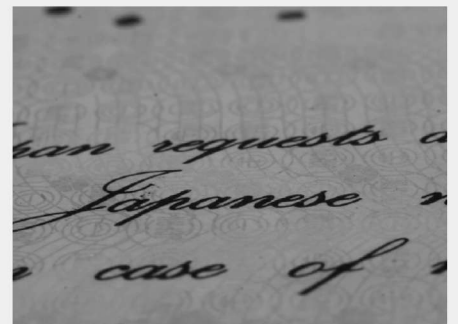
essence of T (2005)



voice of sun (2005)

文字が生み出すチカラは、形と言葉の美しさだけではない。自分の世界も広げてくれる。

平面にレイアウトする文字組、文字そのものを作り出すタイプフェイスデザイン、映像や立体に展開した文字の空間表現など、文字を使ったデザインを通して、その形や言葉の美しさを追求しています。文字が生み出すチカラによって、自分の世界もどんどん広がっています。



impressions (2017)